

環境保全・地域貢献レポート



びわぎん緑と水の基金助成事業

(小堀町自治会：白い花咲く町づくり事業)

長浜市小堀町は、茶人、作庭の巨匠として名高い、江戸時代初期に活躍した武将、小堀遠州公の生誕の地です。市民の手により、小堀遠州公が茶の湯の世界でこよなく愛した、白い椿を植樹する活動が進められています。

「環境銀行」

当行は、清掃ボランティア活動からスタートし地域の環境保全活動を長年にわたって継続してきましたが、いよいよ環境問題が新しい産業群として形成されつつあるとの認識から、環境を銀行の事業としてとらえ、「環境銀行」を創設しました。

長年にわたる地域の環境問題に対する取り組み

ボランティア活動

当行では、地域の清掃活動をはじめ、長年にわたり役職員によるボランティア活動を地道に続けてきました。「ボランティア活動支援委員会」を設置し、ボランティア休暇制度をはじめとした支援体制を整えるとともに、地域で開催される様々なイベント・行事、自主的な清掃活動などにも参加し、地域社会とのふれあいを大切にしています。



「びわこ水源の森林づくり」
植樹ボランティア活動



「クリーンアップびわこ」
清掃ボランティア活動

苗木の寄贈

昭和50年、栗東市で開催された第26回全国植樹祭を機に、「きれいな水は豊かな緑から」との思いで、県内の学校や神社・仏閣へ苗木の寄贈を開始しました。その後、毎年春と秋に滋賀県緑化推進会を通じ、サクラやモミジなどの苗木寄贈を継続しており、平成16年3月現在では累計11万2千本に達しています。



当行が昭和54年に寄贈した30本の桜が25年の歳月をへて立派に育っています。
(河西公園：守山市)



昭和62年に寄贈したハナミズキがきれいに花を咲かせています。
(打出中学校：大津市)

びわぎん緑と水の基金

平成4年10月、創立50周年を記念して財団法人「びわぎん緑と水の基金」を設立し、県内で緑化推進や水環境保全に取り組む自治会やNPOなどの諸団体に対して助成を行っています。平成16年3月現在の助成実績は累計8,443万円となっています。



基金によるヨシ刈り活動への助成



苗木の贈呈

【びわぎん緑と水の基金助成実績（累計）】



■ 当行自身の環境負荷低減への取り組み

ISO14001の取り組み

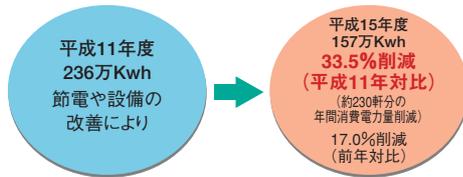
当行では、全国の第二地銀では初となる国際環境規格「ISO14001」の認証を取得し、以来3年半にわたり、自らの環境負荷低減に取り組んでいます。昨年12月には、ISOの審査機関である(財)日本品質保証機構(JQA)の更新審査を受審し、環境マネジメントシステムの運用状況について高い評価をいただきました。



JQAによる更新審査

省エネ・省資源活動

【電気使用量の削減】



【紙の使用削減推移(仕入れベース)】



<電気使用量の削減>

- ◎照明の電気はこまめに切って節電に努めています。
- ◎空調機の運転時間を限定しています。
- 本店/事務センター…8:00~17:00

<紙の使用量の削減>

- ◎コピーの取り方を工夫しています。
- 両面コピー、裏面コピーを励行しています。
- ミスコピーの防止に努めています。
- ◎コピー用紙はすべて再生紙を使用しています。

<夏期省エネ活動「ノーネクタイ運動」>

当行では、平成13年夏より「ノーネクタイ運動」を実施しています。ノーネクタイの場合、体感温度は約2℃涼しくなるとされ、夏場の省エネ効果を上げています。また、ノーネクタイ運動に賛同し、実施されるお取引先も年々増加しています。



リサイクルの推進

使用済みとなった紙類のリサイクル化を推進しており、その成果を地元の福祉活動にも役立てるため、本店および支店で発生する書類をリサイクル処理したトイレットペーパー1万ロールを滋賀県教育委員会を通じて、県立障害児教育諸学校(12校・1分校)に毎年、寄贈しています。



リサイクルペーパーを寄贈

■ 環境問題～銀行業務としての取り組み

地域社会への貢献

- 自然環境保全活動への助成
- ボランティア活動への参加

個人のお取引先

- ご預金等をお預けいただき環境保全活動へ間接的にご参加
- 資金ニーズへの対応など我が家のエコライフをサポート



環境銀行

銀行運営上の取り組み

- ISO14001認証取得
- 環境対策の実践

事業を営むお取引先

- 事業内容に応じた多様な環境コンサルティング機能
- 環境対策を通じて事業の継続的発展をサポート
- 新規参入を含め環境事業を営む方をバックアップ

行内組織により、効果的な機能が発揮できる運営体制としています。

●環境関連事業委員会の設置

コンサルティングや環境関連商品の充実等、環境銀行が有効に機能するための委員会を設置しています。業務の拡大に応じ、将来的には「環境関連事業部」の設置を目指します。

●専門機関との提携

充実したコンサルティング業務を行うため、多くの専門企業・大学等とタイアップしています。

活動内容は四半期ごとに情報開示します。

●環境部門を明確に区分することにより、ご理解いただきやすい事業報告を実施していきます。

- 決算報告:半期ごと(9・3月)に内部管理手法に基づく損益情報を開示
- 取扱商品の残高:四半期ごと(6・9・12・3月)に取扱実績を開示
- 助成実績:期間中の助成については金額、交付先を開示
- その他、環境保全に関する活動実績の開示

新しいタイプの環境関連融資

平成16年3月末の融資残高は21億円となり、前年比2倍以上に増加しました。

<環境コベナンツ契約付き融資の取り扱い>

企業の環境目的の達成状況により適用利率を変更する新たなタイプの環境配慮型商品の取り扱いを開始しました。

<土壌汚染対策法への対応>

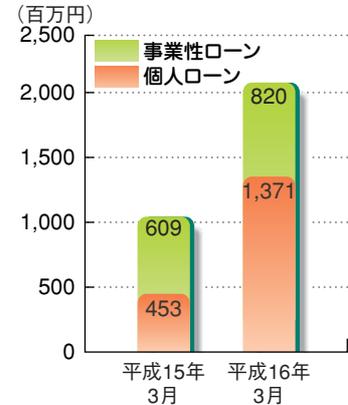
土壌汚染簡易診断システムを取り入れ、土壌汚染懸念物件の担保調査及び担保評価手続きを厳格にし、土壌汚染が認められる場合には洗浄されるまで新たな担保設定を禁止しています。

<環境配慮型企業の評価基準>

ISOの認証を取得し、環境保全に積極的に取り組む企業については、行内信用格付制度における評点を加点する制度を設けています。

<多様な資金ニーズへの対応>

事業を営むお客様（環境サポートローン）から個人のお客様（エコライフローン）まで、幅広いニーズにお応えする商品を取り揃えています。



【事業を営むお客様へ】

- ◆ ISOサポートローン (認証取得に必要な資金に対応します)
- ◆ 環境サポートローン (目的に合った5つのプランをご用意しています)
 - ・クリーン設備プラン …… 大気汚染・水質汚濁を防止するための設備資金
 - ・省エネ設備プラン …… 省エネルギー対策のための設備資金
 - ・リサイクル設備プラン …… 資源のリサイクルを行うための設備資金
 - ・土壌汚染改良プラン …… 土壌汚染の防止・改良のための設備資金
 - ・環境産業支援プラン …… 環境関連産業を営む事業者の方向けの設備資金

【個人のお客様へ】

- ◆ エコライフプラン (環境にやさしい住宅・マイカーのために3つのプランをご用意しています)
 - ・住宅ローン …… 環境配慮型の住宅を建築するための資金
 - ・リフォームローン …… 自宅に環境配慮型設備を設置するための資金
 - ・オートローン …… 低公害車を購入するための資金

エコライフ定期預金

お預りした預金残高に応じて一定割合を環境保全活動に寄付する「エコライフ定期預金」の取り扱いを平成15年9月に開始し、平成16年3月末の残高は、159億円となりました。また、平成15年10月末の残高4,893百万円に基づき、県内の環境保全3団体に978千円の寄付を行いました。



環境に関する相談業務

ISO・簡易認証の取得に関するお問い合わせなど、お客様のご相談に素早く対応しています。また、環境関連の先進企業とタイアップすることで幅広いコンサルティング業務が行える体制を整えています。

「環境銀行」の決算

びわこ銀行の環境関連事業活動のみの報告書を「環境銀行」損益計算書（16ページ）として公表しています。

■ 各方面からいただいた当行の環境保全活動への評価

「関西エコオフィス大賞」を受賞

当行は、「関西広域連携協議会」（滋賀県など関西の2府7県3政令市および経済団体で構成）が提唱・推進する「関西エコオフィス宣言」に賛同企業として応募し、本店および全営業店で地球温暖化防止に向けた取り組みを進めています。

こうした取り組みが「1,882の宣言オフィスの中でも、特に先導的で優れている」と評価され、今年6月、栄誉ある「第1回関西エコオフィス大賞」を受賞することができました。

また、大賞の受賞は国松滋賀県知事の「メールマガジン」でも紹介され、当行の目指す、環境と経済の両立に向けた取り組みを評価いただきました。



平成16年6月8日（関西サミット）会場にて受賞

「環境経営度調査」金融部門全国第2位にランク

昨年12月に発表された日本経済新聞社主催「環境経営度調査」で、当行の環境経営体制（製品対策、ビジョン、環境教育など6項目で採点）が高く評価され、非製造業部門で全国第12位、金融部門で全国第2位に選ばれました。

「環境銀行」に対する当行の思い

現在、地球規模で21世紀型の持続可能な循環型社会への転換が求められています。当行の主たる営業地盤である滋賀県では、琵琶湖の水と周りを取り囲む山々の恵みを受け、環境先進県にふさわしい自然環境保全意識を地域全体で育ててきました。当行も古くから地域清掃ボランティア活動をはじめ、「びわぎん緑と水の基金」による支援活動や苗木の贈呈（累計11万2千本）を通じて、地道な環境保全に取り組んでまいりました。また、平成13年1月には全国の第二地銀に先駆けてISO14001を取得し、行内の省エネ・省資源活動を進めているほか、資源リサイクルの一環としてトイレットペーパーを県下養護学校に寄贈するなどの活動も実施しています。

一方、平成11年より毎年開催され、今や滋賀県のメインイベントになっている「滋賀県環境ビジネスメッセ」など、社会の環境を事業として取り組むトレンドを真正面から受け止め、銀行が持っている本来の金融サービスを環境問題の解決に活用するため、行内組織である「環境銀行」を昨年7月に創設しました。

「環境銀行」では、部ごとの縦割りの組織を超えて事業を検証していくため、横断的に組織された「環境関連事業委員会」を中心に、環境関連コンサルティング業務の展開、環境関連融資の取り扱いやエコライフ定期の発売など、お客様の「環境関連事業」や「環境保全に向けた対応」へのサポートを通して、自然環境の保全と改善に向けた取り組みを積極的に推進しています。

今年2月に取り組んだ、事業の環境目的達成状況によりご融資利率を優遇する「環境コベナンツ」などはその一例であり、環境保全に積極的に取り組む企業・個人のお客様に対して、地域金融機関の機能をさらに磨き上げ、「環境銀行」を推進していきたいと考えています。

環境マネジメントシステムの運用

びわこ銀行環境方針

基本理念

びわこ銀行は、事業活動を通じて自然環境の維持と改善に努め、環境こだわり銀行として地域社会との共生を目指します。

環境方針

1. びわこ銀行は、環境負荷の軽減を推進するエコ・リーダーバンクとして、環境保全に資する商品・サービス・情報の提供など環境関連事業活動を積極的に展開し、環境保全活動の側面からも地域貢献を果たします。
2. 省資源、省エネルギー、グリーン購入など、環境に配慮した活動の実践により循環型社会の形成および汚染の予防に努めます。
3. 環境目的・目標を定めて、定期的な見直しを行い、環境マネジメントシステムの継続的な改善に努めます。
4. 環境保全に関する法規則および、同意したその他要求事項を遵守します。
5. 緑の森林(もり)づくり運動の支援や環境教育の啓発に努め、基本理念および環境方針の趣旨を全行員が理解・共有し、行動することにより地域との交流を図ります。
6. 環境方針は当行の環境保全に関する決意として、一般に公表します。

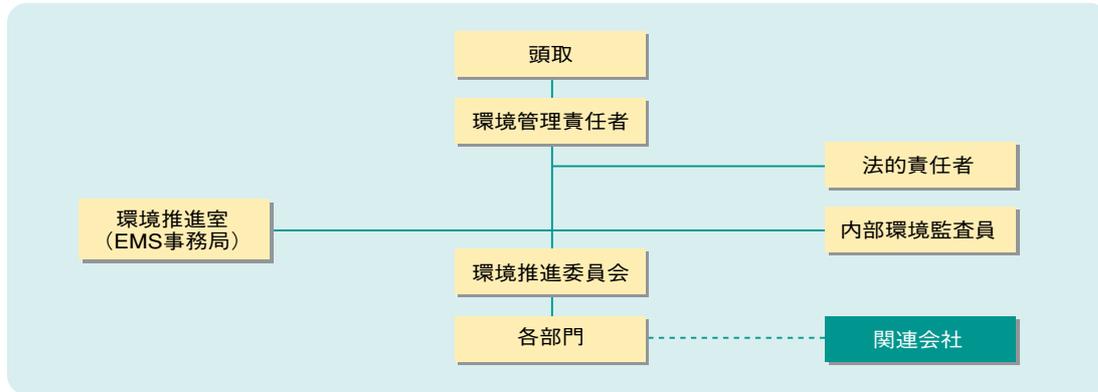
制定 平成12年 7月 5日

改訂 平成16年 4月29日

株式会社びわこ銀行

頭取 長尾 卯

●環境マネジメント組織図



●更新審査を受審

昨年12月、当行はISOの審査機関である（財）日本品質保証機構（JQA）の更新審査を受審し、3年間の環境マネジメントシステム運用状況について、高い評価をいただきました。



●環境目的および目標

環境目的	環境目標	実績	評価	推進状況
「環境保全型・商品、情報の提供」＜環境銀行の運用＞				
環境保全型商品の取り扱い推進	・エコ関連商品の開発	・環境サポートローン、ISOサポートローンの改定	○	・優遇条件を大幅に見直しました
	・エコ関連情報の提供	・個人ローンの改定	○	・住宅性能基準を優遇条件に取り入れました
	・環境に配慮した頒布品の購入	・エコライフ定期預金の発売	○	・平成16年3月末の残高は159億円です
		・全店宛にメールで最新環境情報を発信	○	・最新の環境情報を発信しています
		・頒布品は全て環境配慮商品に変更	○	・手帳の表紙をオレフィン系素材に変更しています
ISOマネジメントシステムを銀行業務に活かす				
		・各部門の特色を生かした独自の目標に取り組む	○	・3S活動、時間効率活動などを推進しています
「びわぎんエコオフィスづくり運動」				
省エネ活動の推進	・各部門は「運用基準」に基づく活動	・「運用基準」に基づき実行	○	・各部門独自の運用基準を設けました
	・全体の電力使用量は188万KWH	・157万KWH前年比△17.0%	○	・不要時の消灯を励行しています
	・「関西エコオフィス宣言」参加により「夏季省エネくノネクタイ運動」を展開	・本店および全店で展開 ・「関西エコオフィス大賞」の受賞	○	・「関西エコオフィス宣言」お客様にも呼びかけました
省資源の推進 (ゼロエミッションへの挑戦)	・低公害車率の向上	・総車両台数の75.0%	○	・天然ガス車を1台導入しました
	・紙の使用削減、305万枚/年	・305万枚/年、前年比+0.7%（仕入ベース）	△	・コピー用紙は古紙配合率100%、白色度70%を使用
	・廃棄物（焼却紙）の削減、5.6トン/年	・5.4トン、前年比△3.5%	○	・段ボール素材やトレットペーパーにリサイクルしました
	・紙のリサイクル率向上、87.0%	・89.2%、前年比+0.2%	○	・「紙ゴミ削減運動」を展開しました
グリーン購入の推進	・特定商品のグリーン購入率87.0%	・グリーン購入率89.2%	○	・特定調達品目および判断基準に基づき推進しています
緑の森林づくり運動の推進				
環境保全活動への支援	・びわぎん緑と水の基金への支援	・緑化推進、水環境保全、自主事業活動の実施	○	・延べ112千本の苗木を寄贈しました
	・びわこボランティア活動への支援	・「びわこ水源の森林づくり」の実施	○	・「地球市民の森」で500本植樹しました

環境コミュニケーション

当行では、役職員への環境啓発、お取引先や地域に向けた環境関連情報発信など、さまざまな環境コミュニケーションを行っています。

【環境教育・訓練】

- 「ISO14001」を運用していくためには、役職員一人ひとりの環境に対する意識改革が不可欠です。当行では、啓発活動として環境セミナーを定期的に開催し、地球環境保全の重要性、環境マネジメントシステムの仕組み等について学習しています。また、毎年内部環境監査員（内部環境監査員養成コース：2日間コース）を数名養成しています。役職員に対しては、「環境目標、かんたんルール、自覚の教育」等を記載した環境ISOハンドブックの携帯を徹底し、環境意識の昂揚に努めています。
- 当行では、「重油貯蔵タンクの油洩れ（給油時・貯蔵時）」、「ハロンガスの洩れ」を緊急事態として特定し、定期的に手順のテストと緊急事態訓練を実施して、必要に応じた見直しを行っています。

教育用テキスト・環境ISOハンドブック



定期的実施する環境教育



【環境情報の提供】

当行では、お取引先の皆様に役立つ環境情報を提供しています。

- 「エコさん一家の日曜日」
毎年、滋賀県や琵琶湖の環境にまつわるテーマ（平成15年度「びわ湖と水鳥の関係」、平成16年度「びわ湖の水とくらしの関係」）を選定し、お子さま向け環境学習冊子を発行しており、わかりやすいと評判です。また、巻末の環境クイズには毎回多数のご応募（平成15年度は約400件）をいただいています。



- 「なるほど！ISO14001」
我が家における環境ISOの取り組みISO14001のシステムを一般家庭の環境改善に置き換えてわかりやすく解説した冊子です。



- 「びわぎん経済情報」
毎月発行の経済情報誌「びわぎん経済情報」では、環境関連ビジネスや諸制度の解説、環境関連事業を営むお取引先へのインタビュー記事等を掲載しています。



- 「ディスクロージャー誌」
ディスクロージャー誌にて「環境保全・地域貢献レポート」ページを設け、皆さまに当行の取り組みを報告しています。また、ホームページにも「環境のページ」を設けて情報の開示・提供に努めています。



- 「びわこビジネスクラブ」
事業主のお客様へ、各種情報提供を行う「びわこビジネスクラブ」。環境関連情報も充実しています。



【汚染の予防】

当行では、「重油貯蔵タンクの油洩れ（給油時・貯蔵時）」、「ハロンガスの洩れ」等を緊急事態として特定し、定期的に手順のテストと緊急事態訓練を実施して、必要に応じた見直しを行っています。平成15年度の事故発生件数は0件でした。

また、当行における騒音の測定値は基準以下となっています。なお、平成15年度の環境関連クレームはありませんでした。



グリーン購入の推進と環境に配慮した頒布品の取り扱い

〈グリーン購入を推進しています〉

当行では、「グリーン購入基本方針」を制定し、事務用品から低公害車、ポスター・パンフレットまで環境に配慮したグリーン購入を進めています。



〈当行の頒布品はすべて環境配慮型です〉

窓口でお使いいただく伝票類や、お札を巻く封紙をはじめ、紙幣袋、通帳ケース、お客様への頒布品についても、ケナフ(CO₂吸収力の強い一年草)使用のティッシュペーパー、ダイオキシン対応のエコラップなど、すべて環境配慮型の品を使用しています。

地球温暖化防止への取り組み

〈関西エコオフィス宣言に賛同し、運動に参加しています〉

当行は、「関西広域連携協議会（滋賀県など関西の2府7県3政令市および経済団体で構成）」が提唱する「関西エコオフィス宣言」の賛同企業に応募し、全店で地球温暖化防止に向けた取り組みを行っています。

室温のきめ細かな設定（暖房20℃、冷房28℃）、空調機の運転時間の限定、アイドリング防止の啓発活動による排気ガス軽減などにより、温室効果ガス削減に努めています。



当行(本店)におけるCO₂削減

削減量を
スギのCO₂吸収量(年間)
に置きかえると



約9万本/年

50年生スギ
(直径26cm、樹径22m)

(試算は林野庁H.P.より)

廃棄物(紙)の削減

〈廃棄物(紙)のリサイクル推進〉

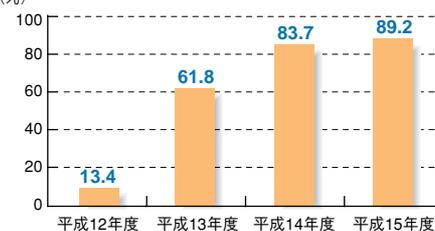
◎使用済みとなった紙類のリサイクル化を推進しています。

- 機密書類関係は、製紙会社にて溶解し、段ボールの素材にリサイクルしています。
- シュレッダーゴミはトイレトペーパーにリサイクルし、当行で使用しているほか、滋賀県教育委員会を通じて、県立障害児教育諸学校に毎年寄贈しています。

◎平成16年度はリサイクル率90%を目指しています。

◎平成14年度より廃蛍光灯のリサイクルシステムも稼働させています(年間約1,000本リサイクル)。

【廃棄物(紙)リサイクル率】
(%)



トピックス

ヒマラヤ地方の子どもに 鉛筆を寄贈

昨年7月、行内や家庭で不要になった鉛筆・ボールペン約2000本を教育環境の整っていないヒマラヤ地方の子どもたちに、現地で植林活動等を行っているNPO法人「ヒマラヤン・グリーン・クラブ（遠藤京子代表）」を通じて寄贈しました。



各種イベントで当行の 取組が紹介されました

財団法人省エネルギーセンター主催の省エネ・新エネ総合展「ENEX2004」において、当行の省エネ取組を紹介していただきました（関西広域連携協議会のブース）。

また、滋賀県主催の「滋賀県発夏のメンズエコスタイルデザイン画コンテスト」では当行のノーネクタイ運動が先進取組事例としてパネル展示されました。



リサイクル工房が 本格稼働

各支店から運ばれてくる事務機やイス、ロッカーなどを修理して、再利用する「リサイクル工房」を本格稼働させています。再生した事務機器は再び本支店で利用したり、福祉施設等に寄付するなどしています。



「リサイクル工房」で修理



福祉施設へリサイクル机等を寄贈

スポーツ貢献

平成5年から始まった「手島杯争奪びわ銀学童野球」のほか、平成6年には「びわこ銀行杯少年サッカー選抜大会」、平成7年には「びわこカップ滋賀県中学生卓球大会」をそれぞれ創設し、以来、3つのスポーツ大会に協賛しています。当行は、スポーツ大会への協賛を通じて、湖国スポーツのレベルアップと子どもたちの健全な成長を願っています。



手島杯争奪びわ銀
学童野球大会



びわこ銀行杯
少年サッカー選抜大会



びわこカップ
滋賀県中学生卓球大会

「あいの土山マラソン大会」 運営ボランティア

受付・案内・誘導・給水等サポーターとして毎年多くの行員が参加しています。

